

皆野・長瀨ロータリークラブ

週報

◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
◇例会場 長瀨レクリエーションホテル 養浩亭
◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀨町長瀨1446 養浩亭内
Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp



イマジン
ロータリー

IMAGINE ROTARY

第1597回例会 令和4年10月13日(木)

【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんにちは。土曜日に会長、幹事会がありました。春山さんへ黙祷して弔って始まりました。会場は新築だったのですが、親子でロータリアンという事でした。お父さんが深谷クラブ、子どもさんが深谷東クラブ所属だそうです。またウクライナ関係の募金活動を地区大会で話があったものとは別に行いたいという事でした。会員のみで集めるだけではなく、一般の人からもという事だと思います。支援活動をロータリーでやっていますという趣旨だと思います。



今回はウイルスの話ですが、前回図で説明致しましたが、ウイルスと病気との関係はあのパターンでほとんど説明出来るという形です。

インフルエンザについて紹介させていただきます。「ウイルスと人間の競争が病気である」

インフルエンザウイルスの場合は、空気感染とか飛沫感染、つまり人の痰や唾液が空気中に飛んで、その中のウイルスが他の人の口や鼻を通してのどの奥や肺に入ってしまう。インフルエンザウイルスはRNAのテープを持ったウイルスですが、このRNAが鼻やのどや肺の細胞に入り込み、その細胞の中で増えていきます。しかし、私たちの鼻やのどや肺の細胞は、DNAやRNAを使って大切な機能を行っているので、入り込んだウイルスのRNAがどんどん増えてくると、普通に働いている細胞がダメージを受けることとなります。競争相手が出てくることによって正常な働きが出来なくなるのです。そうすると、例えばのどの細胞はダメージを受けておの表面が殺されて痰になり、その痰を取り除こうとしてくしゃみや咳などの反射が起こります。また、多くの粘膜の細胞が死んでしまうと修理して新たにつくりなおさなければならぬし、変なものが増えたということでそれに対して体を守ろうとする働きをしなければなりません。ウイルスは私たちにとっては異物なので、それを殺してしまおうと大変高い熱を出すという事になります。特にインフルエンザウイルスは増える力が非常に強く、それに対する私たちの体を守ろうとする働きも強くなるので、解熱剤を飲んでもなかなか熱が下がらないし、筋肉も痛いという症状

が長く続くのです。

今インフルエンザウイルスを一つの例にしてお話しましたが、ウイルスが私たちと同じテープ、同じ4つの文字を使って増えようとするのに対して、私たちの体はそれを増えさせないようにしようとする。その競争が実は病気であるということです。

先ほどのインフルエンザウイルスが肺とか喉にうつるのは肺とか喉が持っているレセプターという細胞の中の突起ですが、その突起にうつるという事です。血液にうつる病気は血液が持っている突起にうつる。細胞がどんな突起を持っているかで、どのウイルスに感染するか違ってきます。突起が鍵になっているという事です。

【幹事報告】

山田 利明

1. 地区事務所より
 - ①SLジャックプロジェクトについて
 - ②ポリオデーに関する販促品の配布について
2. 米山記念奨学会より事業報告書及び決算報告書

マサカ（魔坂）と私



山田 利明会員

私の趣味は山登りです。仕事も趣味のような事もあります。コロナが流行る前には行きたい所は行きました。その後コロナ禍になり、近所の山を見直そうという事で、計画を立てました。私の山の会は「ジャパンハッピーフレンド」という名称です。年を取ったので、近所の山という事で、「秩父フロントマウンテントラバース」と名付けて9日間まわる計画を立てました。車を使わずに歩いてみようと思えました。

1日目は2021年10月18日でした。電車で波久礼まで行き、小林みかん園を通過して、寒神峠に行き釜伏を通過して登谷山までが1日目でした。もう少し行けたのですが、早く登ろうという事ではなく、お酒を持って行って、危ない所はありませんので、お昼に小宴会をしてゆっくり帰って来よう。1日目は登谷山まで行き、親鼻駅まで歩いて、それぞれ電車で帰ってきました。

